

# 東由利町報

No. 265 昭和52年10月1日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1・15日発行



営農メモ

## 稲作

### ◇脱穀・調整

脱穀・調整作業は、良い米をつくるための最後の作業ですので、品質向上のため作業管理を十分に行ってください。

調整時の品質低下の主なものに、肌ずれ、胸割れ、カーボン附着などがあります。これらの障害に対しては、籾水分の均一、ロールの左右の磨耗度を均一にします。人工乾燥の籾では穀温が高いと肌ずれが生じますので、籾温には特に注意が必要です。

### ◇秤量・包装

秤量・包装は生産農家にとっては最後の仕上げ作業となりますので、適正量目に十分に配慮し、粗漏のないように注意し、正確にしかもきれいに仕上げるような心がけが大切です。

(東由利町農業総合指導センター)

No. 265

10/1

# 墓構群を検出

## 発掘調査で



基構群は全国一の規模…それだけに学術的価値が高い

八月八日から発掘がすすめられていた「湯出野遺跡」は、去る九月十九日で調査を終えました。

町教育委員会では、調査期間中町内の小・中学生に現地見学をさせたほか、九月二十二日には一般町民を対象に現地説明会も開催しました。

今広報では、同遺跡の内容についてお知らせします。

### ほ場整備関連で 緊急発掘

高瀬川の支流である松沢川は、横山（八日町）部落から西にむかって流れています。国道一〇七号線の直前で急激に流跡を北に変えています。湯出野遺跡は、この曲り角の「ふところ」

に抱かれるようにして位置しています。

土器や石器などが分布しているのは、この「ふところ」のうち、南北約二〇〇m、東西約一〇〇mの二〇、〇〇〇平方メートルの面積で、川の水面との比高はわずかに三〜四メートルのところです。

同遺跡は、昭和三十七年に県教育庁が行った「秋田県遺跡地名表」の作成にあたり、当時、蔵小学校の校長をしておられた佐々木二郎氏が調査し確認された「周知の遺跡」となっていたものです。

同遺跡は、その後も水田として利用されてきましたが、本年度同地区で行われている県営ほ場整備事業の予定区域内に入っていることから、遺跡が壊滅するおそれが生じたため、一部記

### 遺跡は二五〇〇年 〜三〇〇〇年前 のもの

遺跡には——水に近い、大きい山など目立つものが見える、土地の水はけがよい、北風があたり、背後に山をひかえている、——など、古代人の基本的な生活条件に共通するものがあり、湯出野遺跡もその例外ではありません。

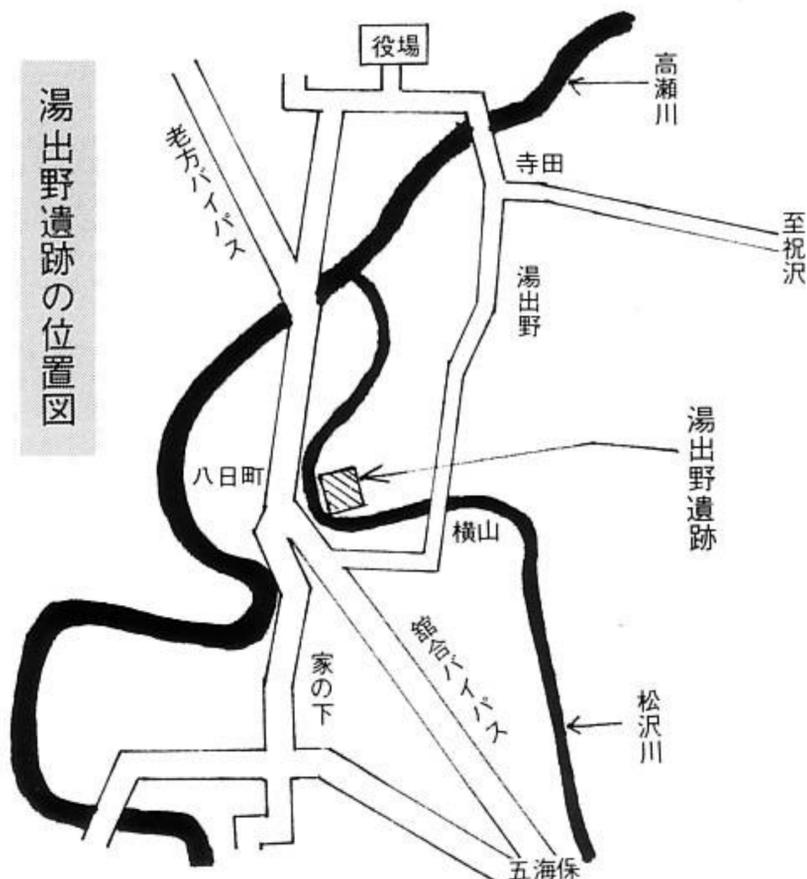
同遺跡からは、縄文時代晩期に属する土器と石器が大量に出土しており、土器は、日常容器としての粗製土器と特殊な用途に使用されたと思われる精製土器が、また、石器は日常使用する石鏃（せきぞく）や（じり）や石匙（いしざじ）動物の皮剥ぎや肉を切るための道具、石斧（いしおの）などがその主体となっています。

このほか、特殊な用途に用いられたと思われる土偶（どぐう）土製の人形（にんぎょう）や耳飾りなどの土製品と石剣や石棒などの石製品も出土しており、これらの出土品から同遺跡は縄文時代後期から晩期まで（今から二、五〇〇年〜三、〇〇〇年前）のものと思われる。

出土品の概略は次のとおり。

- ・ 深鉢形土器
- ・ バケツ形をした土器で、日常容器の代表的なもの。ものを煮炊きしたものでススや黒いこびりつきの付着したものが多い。

### 湯出野遺跡の位置図



- ・ 浅鉢形土器
- ・ 浅い椀形や皿形をした土器で現在のお椀やお皿のように使用したと思われる。大半が念入りに整形され精巧な文様が施されている。中には特殊な用途に用いられたらしく朱彩を施したものも見られる。
- ・ 壺形土器
- ・ 口が狭く、胴がふくらんで底がすぼまっているいわゆる「ツツボ」形の土器である。液体を入れたり、ものを貯蔵する場合に使用したと思われる。
- ・ 注口土器
- ・ 注ぎ口のついたもので「急須」形をしている。
- ・ 土偶
- ・ 土製の人形で四体分ほど出土しているが完全なものはない。

この時代の特徴的な文様が施されている。

- ・ 耳飾り
- ・ 白形をしたもので直径一・二cm、朱彩され中央部に穴が開いている。
- ・ 勾玉（まがたま）
- ・ 巴の紋の一片に似た形で穴があり、ヒモを通して首、えりの飾りとした。
- ・ 石鏃
- ・ 石鏃の先につけるもの。
- ・ 石槍
- ・ 石槍の先につけた穂先
- ・ 石匙
- ・ 動物の皮剥ぎや肉を切るために使った道具。
- ・ 石斧
- ・ 打製と磨製があり、大形のもの木を切るとか、土掘りの道具

# 県内で始めて 湯出野遺跡

具として使われたと思われる。  
・石製品  
日常利器としての石器ではなく、権威の象徴や儀式などに使われたと思われる石剣、石棒、形の不定な装飾品とも思われる用途不明の異形石器が出土している。また、装飾品としての玉（直形六〜七、ほどの石に穴をあけたもの）が墓構から出土している。

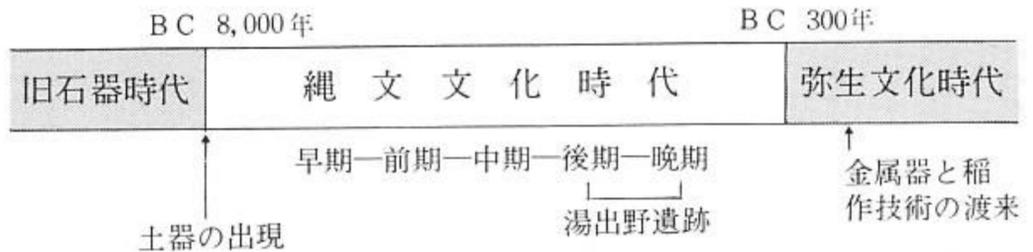
また、今回の発掘で検出した遺構はすべて墓構（お墓のあと）であり、同時代の一〇〇体以上の墓構が群をなして発見されたのは、秋田県内では始めてであり、全国的にもめず

## 墓構群からは 副葬品が出土



↑ 墓構の中の土は丁寧に水洗いされ、副葬品などが検出された

### 湯出野遺跡の時代



らしいことである。  
墓構は、一部が隅丸方形（円形）であるほかは、大部分が隅丸長方形（楕円形）で、長径は約一〇〇〜一六〇センチ、短径は約四〇〜一二〇センチと大小さまざまです。  
現存する深さは地山面より一〇〜三〇センチ程度ですが、これほどの耕作等により上面がかなり削平された可能性があり、もともとは四〇〜六〇センチの深さがあったのではないかと考えられています。  
墓構の中には人骨こそ残存していませんでしたが、首飾りではないかと思われる緑色灰岩製の小玉や耳栓様の耳飾り、まがたまなどの副葬品と考えられるものが出土しており、他の遺跡の例からしても墓構群と考えるのが妥当と言われています。

群は極めて例の少ない発見であり、今後同時代の生活様式などが学術的に議論される場合にはこの湯出野遺跡の発掘結果は必ず引用されることでしょう。たいへん意義のある貴重な遺跡です……と、その学術的価値を強調し、発掘を総括しています。

**保存を  
望む声も……**

遺跡の発掘は詳細に調査するほど多くの労力と時間が必要です。湯出野遺跡程度の規模ですと、ふつう二年から三年の期間が必要（発掘チームの島山主事談）ですが、同遺跡の場合は、ほ場整備事業の竣工期限との関連で、五十日余りという極めて短期間での発掘でした。

それだけに詳細にわたって調査することができなかった面も多く、町民の間からは「私たちが



発掘期間中は町内の小中学生が訪れ、'生きた本物の教材'を学んだ

## 交通事故ゼロを願って



### 館合バイパスに 「交通安全塔」を

秋の全国交通安全運動期間中にあたる九月二十五日、町商工会青年部（佐藤智治郎部長）では、「交通事故ゼロ」を願って館合バイパス（八日町地内）沿いに「交通安全塔」を立て、ドライバーたちに安全運転を呼びかけています。

塔は、高さ八・二メートルで上部には側面に町称を書き入れた大型乗用車がシンボルとして上げられ、夜間でも見えるように自動車全体にけい光塗料が施されています。

同青年部では、これまでも「ストップマーク作戦」などで、交通事故の防止に活躍しており、「安全塔」は同青年部の十周年記念事業の一つとして行われたものです。

「交通事故ゼロはみんなの願い」です。

の祖先が生活していた文化がこのような形で発見され、しかも全国的にも例の少ない貴重なものであるならば、ぜひ完全発掘をして保存を……という声が高まってきており、県教育庁

文化課でも墓構群は学術的価値が高いだけに、継続調査を前提にして現在検討をすすめています。

なお、出土品の一部を次のページに紹介しています。

遺跡  
出土品

土器をはじめ石  
器が多数出土しま  
す。その中の代  
表の一部紹介



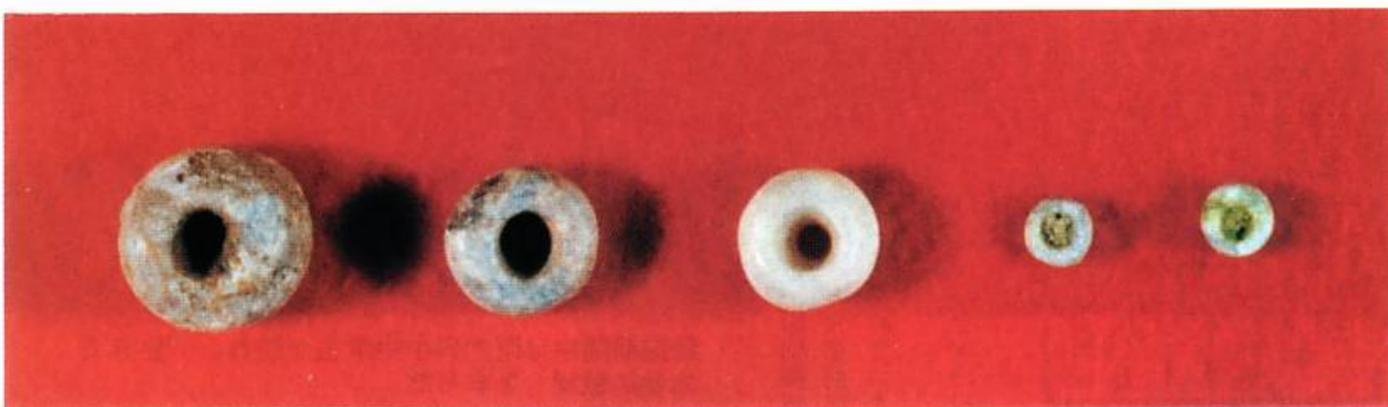
石棒片(下) 石斧(右)、右匙、ヤジリなどが多く出土している。石棒は表面がきれいに磨かれ、所持者の地域内における権威をあらわしたものとされる。石棒片の大きさは約32センチで、全長はわからない。



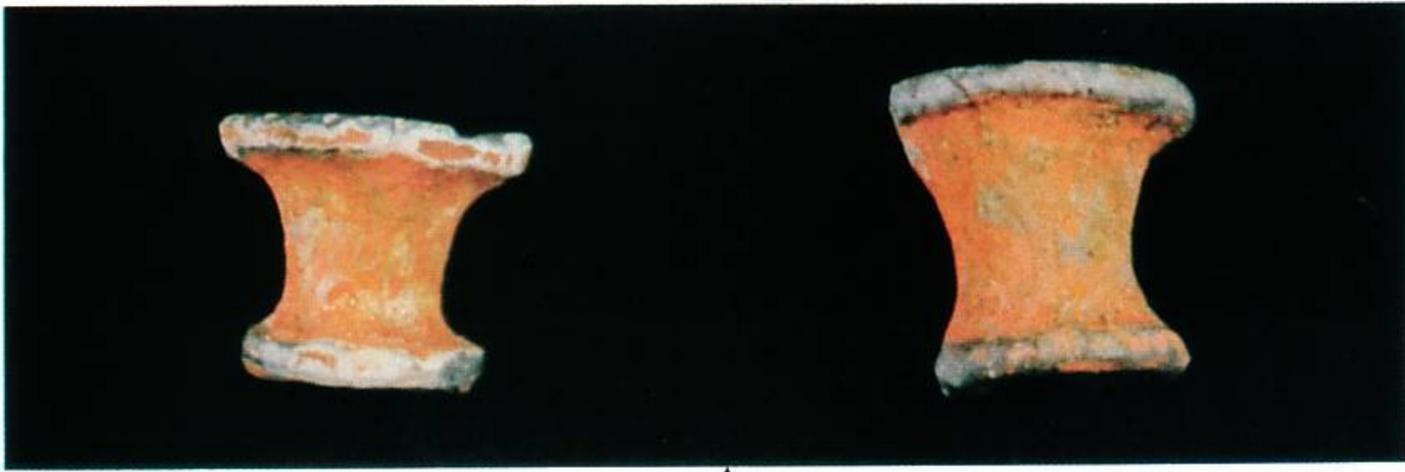
壺形注口土器の一つ。陰のう様のついた注ぎ口があるのが特色で、現在の土ビン、急須の前身と思われる。(高さ約12cm、幅約11cm)



広口壺形土器の一つで、底に「へソ」様があるものもあり、実生活よりも祭事等や装飾として用いられたものと思われる。大きさは高さが約7cm、幅が約11cmである。



装飾用の丸玉で、紐でもすび腕や首などに飾ったものと思われる。大きさは直径5〜7ミリのものから2〜3センチのものまである。



耳せん様の耳飾りで、きれいな朱色に着色され、現在のイヤリング用として身体を飾ったと思われる。大きさは直径約1cm、高さ約1.3cm。

土偶の一種で、まじないや儀式など特殊な用途に使われたと思われ、大部分が女性を形どっている。身体の一部が欠けているものが多いことから、人々が土偶に傷をつけて負傷や疾病の災禍をこれに転嫁しようとしたと言う説もある。(高さ約15cm、幅約10cm)

湯出野  
からの  
湯出野遺跡からは  
器や装飾品など  
したが、ここ  
表的なもの  
します



土偶(土でつくった人形)の一種で東北地方に多く発見されている。何に使われたかはわからないが縄文人の抽象表現の優秀さが示されている。(高さ約6.5cm、幅6cm)

「まがたま」と呼ばれるもの。うすみどりの色のヒスイで、飾りものなど貴重品として扱われたものと思われる。大きさは最長部で約3センチ。



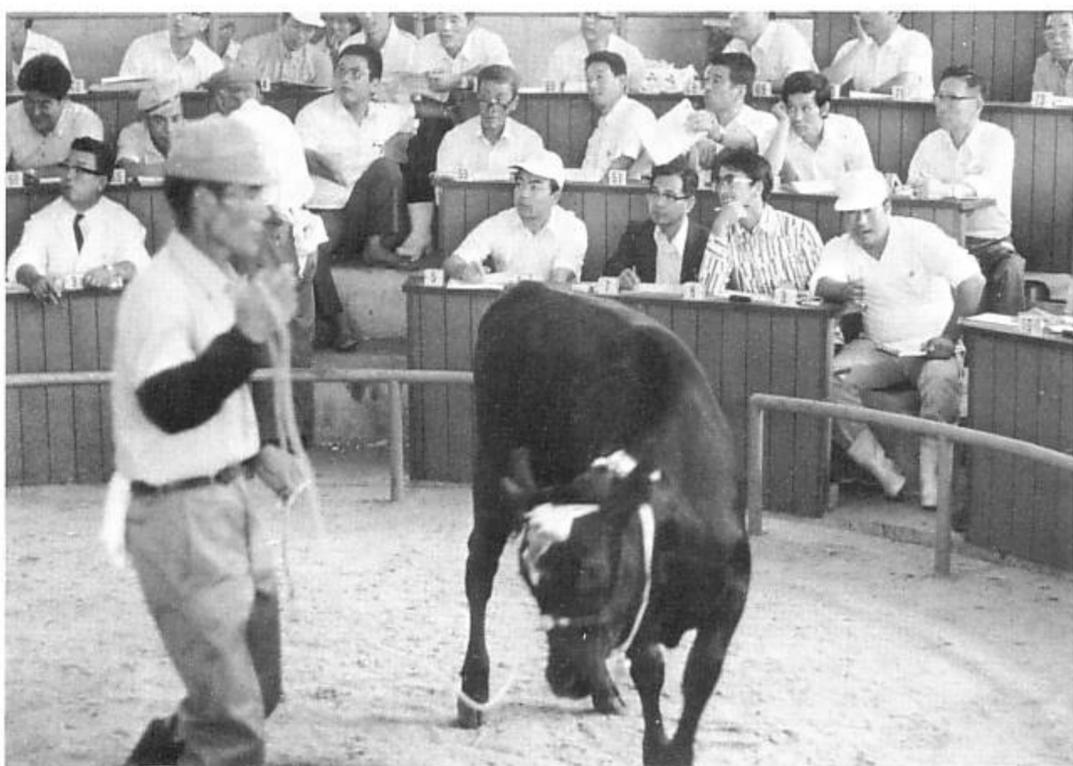
# 繁殖素牛の改良を目ざして

## ★ 島根牛25頭を導入

町内の肉用牛飼養頭数は年々増加していますが、それに伴って繁殖素牛の改良が大きな課題になってきました。

そのため、町では今年から三か年の計画で、県外肉用牛飼養先進地から一〇〇頭の優良素牛を導入し、町内の繁殖素牛の改良と系統の整理を図ることにしています。

今年の導入は、去る九月十六日から同二十四日まで島根県に職員を派遣し、同県雲南家畜市場および東部家畜市場であわせて二十五頭を購入し、それぞれの農家に引き渡しました。



島根牛に学ぶところは多い……後方は購買にあたった（前列右から）小松係、遠藤光昭さん、富樫課長、太田係長。

### なぜ素牛の改良は必要か

繁殖牛の飼養頭数、飼養農家の増加とともに、飼養技術や交配に対する認識も高まってきており、町畜産共進会などでも改良が着実にすすんでいるという評価がなされています。

しかし、体型や資質などにおいて県外先進地の素牛に比較すると、まだまだ改良の遅れている面が多く、これらは総じて肉質の良否につながっているだけに、肥育農家や市場での評価も決して芳ばしいものばかりではないのが現状です。

近年におけるわが国の肉用牛経営は、年間十三万ト（昭和五十一年度）を超える外国からの輸入肉によって圧迫され、きわめて不安定な状態がつづいています。

それだけに、肥育農家からは良質の肉用牛の生産が強く要求

されています。

一方、わが国の経済水域が二〇〇万に設定されたことにより、海洋資源の有限性があらためて確認され、蛋白質資源の不足は必至です。その不足分の補給については必然的に畜産資源に求められてきており、良質な肉用牛の増産によって国民の蛋白質を自給確保することは国家的な課題とも言えます。

こうした現実を背景に本町の肉用牛飼養の将来を展望した場合、これまでのような個々の範囲での改良ではなく、全町的な範囲で体型や資質の改良を一層押しすすめると同時に、系統を整理し計画的な交配を行うことにより、東由利での生産に適した牛で、しかも市場価値の高い「東由利の牛」をつくっていかねばなりません。

導入が計画されている一〇〇頭はその基礎牛となるもので、今後種牡牛を選定して系統交配を行い、優良な素牛を生産し、

# 町長日記

期待する。

○ 八月三十日、婦人会の町内研修に同行して説明をする。本町の地形上から、道路改良災害復旧、圃場整備等は現地まで行かなければ実態がわからない箇所が多い。お天気に恵まれ、参加者の皆さんには一とおり町内の実際を見ていただいた。

○ 今年の部落長さんの研修は本年八月にオープンした湯沢市木地山の国民休暇村に行く。途中羽後町の農業構造改善事業を見学。

○ 部落長さんには、それぞれ家業の間で町政に協力していただいている。役場の職員としては一枚の通知でも部落長さんの立場を考えながら、協力をお頼みするという心がけが大切である。町政への協力に心から感謝申し上げます。

○ 本荘高校定時制課程の三十周年記念式に出席して、功労者として表彰を受ける。

○ 定時制高校は「働きながら学ぶ」という、新しい戦後の教育課程であり、輩出された人材はすでに社会の中堅層に確実な位置を占めている。全日制課程と異ったバイタリティと社会性に富んだ人間形式がされており、一層の発展を

○ 明年県営圃場整備が第一換地区内（須郷田橋以南）に実施されるために、主要地方道（羽後向田館合線・仁賀保矢島館合線）の拡幅または付け替えの必要が出てくるため、方線について県道路課と協議し、大方の点は決まる。

○ 今年度の敬老会も全地区終る。老人の皆様のご健康を心から祈念して、明年も元気でおいでできるようご期待をしております。

○ 元東由利村収入役の佐藤直蔵氏永眠される。町政へのご功績に対して心から感謝申し上げます。

○ 九月二十七日、九月定例議会。総予算額十四億八千六百四十三万円となる。

## 購買市場の状況等

区分	性	取引頭	最高価格 円	最低価格 円	平均価格 円	平均体重 kg	1kg当り価格 円
雲南市場	雌	279	729,000	90,000	272,019	235	1,158
	雄	19	436,000	117,000	266,842	260	1,026
	去勢	342	360,000	155,000	279,132	261	1,069
	計	640			275,540	249	1,107
東部市場	雌	105	641,000	117,000	252,938	232	1,087
	雄	2	280,000	137,000	208,500	258	808
	去勢	121	330,000	170,000	243,000	259	937
	計	228			247,433	246	1,003
本町導入牛	雌	25	553,000	208,000	377,960	243	1,553

また、今年の五月に宮崎県都市で行われた「第三回全国和牛能力共進会」では、全国二十九道府県から出陳された二七九頭の中で、島根牛は総理大臣賞をはじめ各部門で上位入賞を独占しています。これなども、島根牛の改良方向が全国の模範であることとをいしめると言えます。

### なぜ島根牛を 導入するのか

わが国の肉用牛飼養の先進県としては、岡山県、島根県、兵庫県、鳥取県などがあげられますが、それではどうして島根牛を導入することにしたのか……島根牛はどこがすぐれているのか……

本町では、これまでも何回

か先進地から繁殖素牛の導入を行っていません。近年では昭和四十二年に岡山県から三〇頭が導入され、それなりの成果をあげました。

今回の導入で島根牛に白羽の矢がたてられたのは、体型や資質がきわめてすぐれていることはもちろんですが、島根牛の生産方法は単に島根牛間だけの交配ではなく、優良な岡山牛や鳥取牛などの指定交配も行うことにより、より優良な仔牛を生産しており、こうした島根牛の改良の方向はこれからのわが

## 導入された牛の明細

名号	生年月日	血統			体重 kg
		父牛の名号	母牛の名号(得点)	母牛の父の名号	
かねよし	52. 2. 2	大 道	よしひめ1 (78.2)	大 雄	234
ゆたか	52. 1. 8	〃	第4ふくはな (原 78.0)	晴 美	239
しげみち	51. 12. 25	〃	しげと1 (原 78.2)	美 富	241
ひろはな	52. 1. 5	〃	第5ひろたや (77.0)	深 貞 政	232
ひなこだけ	51. 12. 15	〃	ひなもり51 (原 78.0)	賢 晴	244
わかみすぎ	52. 1. 20	〃	たかほこり (78.2)	坊 三	236
あきもり	52. 1. 5	嵐 晴	うえもり (78.5)	隆 盛	239
第4しげる	52. 2. 3	〃	たけとみ (原 78.5)	晴 美	250
きたつね7	51. 12. 26	〃	はなぶさ (77.0)	富 二	225
ひこふじ2	52. 1. 16	賢 晴	ひろよし5 (78.4)	板 持 5	229
はつきかえ6	52. 1. 1	〃	たから9 (77.0)	千 代 倉	216
ふくはな5	52. 1. 30	〃	ふくはな (78.5)	福 武 十三	254
さかもと	52. 1. 21	〃	さかもと3 (77.0)	第八高神	258
こう6	52. 1. 21	〃	むらさき1 (高 78.3)	第十四茂	248
としはる	52. 1. 20	晴 美	うちだ9 (原 78.3)	第四池乃伊	238
ほしはる2	52. 2. 15	〃	ふくせい (原 78.2)	美 富	247
よしはる	52. 1. 20	〃	第8よしえい (78.4)	大 道	249
よしはな5	52. 1. 3	〃	第4ひらた (78.0)	若 見 山	281
といふじ4	51. 12. 20	大 雄	ま お く (78.0)	植 田 六	235
やまさかえ	51. 12. 25	〃	えいこう10 (原 78.0)	倉 栄	253
としはな2	51. 12. 1	第7系桜	くろめ3 (77.0)	第四池乃伊	238
よしきかえ2	52. 1. 25	〃	すみよし (78.3)	美 富	238
もりにしき	51. 12. 28	〃	いしにしき (原 80.0)	大 道	233
いのこばら7	52. 2. 12	〃	お む ら (77.3)	第四福花	230
はるたか3	52. 2. 9	〃	いた2の2 (77.0)	谷	243

### 行政・農協・ 生産者が一体で

島根県では年間一七、〇〇〇頭の仔牛が生産され、そのうち六〇〇頭が県外へ流出しており、しかも大部分は優良牛であるといえます。

雄牛の系統整理は一応終了したので、雌牛の系統整理が今後の最大の課題であるが、それと併しよに現在生産されている優良牛の保留対策も大きな問題であり、現在集落ぐるみでの保留対策(新島根方式)を、県、市町村、農協、生産者が一体となつてすすめている。

また、現在飼っている人は一頭増頭し、無家畜農家も誘導していく「一人一頭増頭運動」も

### 優良牛の 保留対策は島根でも

この話でもわかるように、島根牛は一朝一夕に改良できたものではなく、行政、農協、生産者が一体となつてすすめた結果であり、それは稲作経営との連携も決して見逃していませんでした。

今回の導入には、町から小松産業係、農協から太田畜産係長、由利畜連から富樫指導課長が、それぞれ派遣されました。

職員らは、連日遅くまで次の日の出陳名簿で血統などを検討



表紙の  
ことば

今年で十回目を迎えた町民運動会は、去る九月十五日に約三千二百人が参加して台山グラウンドで行われました。前日夜半からの雨で開催があやぶまれましたが、当日は

良牛の保留対策は着実にすすんでおり、他県からの優良牛の購買は年々むずかしくなるのではないかと思われる一面も見られました。

なお、購買市場の状況と導入牛の詳細は別記のとおりです。

晴れ上がりまあまあのコンデションの中で、競技は終始熱気にあふれ、なごやかな中に展開されました。

地域や部落のみんなが一丸となつて競い合う様子は、地域の連帯や隣人同志の和が、さらに一歩も二歩も前進したことをうかがわせるものであり、結果は大琴部落チームが優勝を、初出場の祝沢・茂沢部落チームが準優勝を飾りました。

東由利町報 二六五 昭和五十二年十月一日発行 昭和42年7月21日第三種郵便許可 発行 秋田県東由利町役場 毎月一日・十五日発行 一部20円 印刷 K K 本間印刷所



# 新町チームみごとと準優勝

## 第六回水交 若鷺旗争奪 全県野球大会で

県水交会主催の「第六回水交若鷺旗争奪全県野球大会」が、去る九月六日～七日の両日、県営球場で行われました。

この大会には、全県各地区の予選を勝ち抜いた十チームが参加しました。本荘由利地区からは本町の新町チーム（金子幸一郎監督）が代表として参加し、



賞状、トロフィーを手に喜びの新町チーム

同時に個人賞を受けました。

- 敢闘賞 島山孝夫
- 優秀選手賞 長沼久利
- 優秀選手賞 小松徳重

### 善 意

#### 広報に一万円

東京都にお住いの佐藤順治さん（警視庁巡査部長、寺田佐藤殿さん実弟）より広報活動のためにと一万円が寄せられました。

どうもありがとうございます。有効に活用させていただきます。と思います。

#### 町に図書八冊

東京都にお住いの加藤和一郎さん（元玉米小学校長）より、町あてに「藍の季節」外七冊の図書が贈られてまいりました。どうもありがとうございます。

来年はぜひ優勝したい……と早くも来年の大会に思いをせていました。なお、新町チームでは次の三人の方が

### 籾乾燥機による

### 火災の防止を

例年秋の収穫期に入ると、籾乾燥機による火災が各地で発生しています。これまでの例は、ほとんどが燃焼機

関の掃除を怠ったためのもので、煤がたまり、不完全燃焼や異常燃焼を起こし、しかも非住家です。監視人が不在だったりして発見が遅れ、莫大な損害を出しています。この種の火災を防止するため

(消防本部)

### 防火に関する

## 作文・ポスター

## 標語を募集

町では、町民の防火思想の普及徹底を図ることを目的に、次により、作文、ポスター、標語を募集します。

#### ◇応募資格

- 第一部 小学校五～六年生
- 第二部 中学生
- 第三部 高校生
- 第四部 一般

#### ◇規定

- 作文 四百字詰原稿用紙四枚以内第一部は三

- ポスター 色彩は三色以内で防火思想の普及に適合するものであること。
- ポスター 大きさはB2判～B4判とする。
- 標語 防火思想の普及または喚起に適するものであることとし、一人二編以内とする。用紙はたて二十五・七センチ、よこ五センチ

#### ◇応募の注意

- 作品は全て防火に関するもの。
- 応募作品はお返ししません（町で保管）。
- 作品には、学校名、学年氏名または部落名、氏名を記入してください。

#### ◇募集期間

昭和五十二年十月十五日～同十月二十五日

#### ◇入選作品の発表及び展示

作品は十一月五日から始る生活文化・農業祭に展示し入賞を発表する。

#### ◇作品の送付先及び問い合わせ

東由利町役場 住民課消防係

## 慶 弔

8月21日～9月20日

### ○誕生

おめでとう



○結婚 おしあわせに

- |        |       |     |
|--------|-------|-----|
| 阿部江美子  | 横渡 正  | 長女  |
| 大日向美香  | 寺田 賢治 | 長女  |
| 島山利幸   | 上通 勝男 | 長男  |
| 石渡仁久   | 岩館 豊和 | 長男  |
| 小野寺 元  | 板戸 武夫 | 長男  |
| 工藤基嗣   | 中沢 正悦 | 長男  |
| 千葉 昭三  |       | 島   |
| 菊地 ツタ  |       | 宇戸坂 |
| 小笠原 慶悦 |       | 蔵新田 |
| 佐藤 茂子  |       | 泡ノ瀬 |

一一〇番はすばやく ためらわずに

本荘警察署管内の電話局に入っている緊急用の一一〇番は、これまではダイヤルを回すと本荘警察署に通じていましたが、十月四日からは全県の一〇番が県警察本部内にある通信指令室に集中管理されることになりました。

一一〇番は、「いつ」「どこで」「だれが」「何があったか」をはっきり話してください。（東由利警察官駐在所）

# 東由利町報

No. 266 昭和52年10月15日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1・15日発行



営農メモ

## ◆稲わらすき込みと地力増強

収穫の機械化、特にコンバイン等の普及にともない稲わらのすき込みが行われておりますが、すき込みには次の注意が必要です。

### (1) 秋散布……秋すき込み

生わらはは細断し、秋すき込みを原則としますが、この際一〇ア当り珪カル一五〇キ、ヨーリン六〇キ、石灰チツソ二〇キを散布し、直ちにロータリーで十五センチ程度の深さで土壌混和することが大切です。

### (2) 秋散布……春すき込み

この方法でも珪カル、ヨーリン、石灰チツソを添加し、春耕は可能な限り早めに行うことが大切です。

### (3) 稲わら施用基準

稲わら使用は排水の良い圃場を条件としますが、排水の悪い還元型の圃場では生産稲わらの二〇～五〇割減、極端に排水の悪い強還元型の圃場では稲わらの施用を控え、圃場での促成堆肥で地力の増強を図ることが大切です。

(東由利町農業総合指導センター)

No. 266

10 / 15

一般会計

# 33,674千円追加

## 四議員が当局の考えをたず

### 国保助産費を六万円に

- 町議会第五回定例会は、去る九月二十七……
- 日に招集され、四議員による一般質問とそ……
- れに対する答弁が行われたのに続いて、三……
- 千三百六十七万四千円にのぼる一般会計補……
- 正予算など五議案について審議、いずれも……
- 原案どおりに可決して閉会しました。……

### 審議された議案

審議された議案の概要は次のとおり。

▽町国民健康保険条例の一部改正

町国民健康保険の被保険者が出産した場合の「助産費」を、現行四万円から六万円に引き上げたもの。

▽昭和五十二年度町一般会計補正予算

歳入歳出予算の総額にそれぞれ三千三百六十七万四千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ十四億八千六百四十三万円にしたもので、歳出補正の主なものはおおむね次のとおり。

- ・黒淵診療所建築費(追加分)八十一万六千円
- ・緊急粗飼料増産総合対策事業費補助金五百八十七万七千円
- ・田園畜舎設置事業費補助金百九十万円
- ・草地造成事業費補助金三十万円
- ・林業振興費七十一万九千円
- ・林道新設改良費百五十一万二千円

道路維持費百三十五万円  
道路新設改良費八百五十五万六千円  
横渡運動場整備費百四十万五千円 など。

▽昭和五十二年度町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算

歳入歳出予算の総額にそれぞれ六百九十万三千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ三億四千三百四十一万六千円にしたもの。

▽昭和五十二年度町黒淵診療所特別会計補正予算

歳入歳出予算の総額にそれぞれ十一万二千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ百九十四万五千円にしたもの。

▽町道の認定について

路線名「軽井沢線、起点「宿字森ノ越一番地先、終点「黒淵字山ノ下谷地二五番地先延長一五、四四〇」

### 一般質問

一般質問には四議員が立ち、次の各項について当局の考えをたずねました。質問と答弁の概要は次のとおり。

余り米  
全量買上げを  
期待

《質問》 農家の間には今年も余り米が出るのではないかと、心配があり、当然買上げしてもらえらるとうと期待している。これに対する見解を。

《答》 余り米について県では国に対して全量買上げを強力に要請しており、その結果を期待している。

町営二放牧場  
今後の運営を  
検討したい

《質問》 町営放牧場は病気の発生などで、必ずしも農家の期待にこたえていない。今後の運営に対する見解を、県営中山牧場の見通しとあわせて伺いたい。

《答》 放牧牛は毎年衛生検査を行っており、今年発生した貧血症は草地の老化にも関係あると思われるので、今後の運営については受益農家とも検討したい。なお、中山牧場は出羽丘陵開発構想の中で保呂羽山麓国有林地帯の開放による、大規模畜産基地を設ける構想であるが、現在明確な方向は定まってい

検討が必要

《質問》 老方地区前堤を宅地造成することについては、水利の確保ができ、造成可能ならば積極的な検討を望む地域の声もあるが、当局の見解は……。

《答》 前堤は国有のものであり、埋め立てするにしても利用権の調整、多大な造成事業費造成後の管理、処分など多様な問題をかかえており、今後かなりの検討時間が必要と考える。

湯出野遺跡  
一部だけでも  
保存したい

《質問》 湯出野遺跡に対して町は今後どのような姿勢で対応するのか。

《答》 ほ場整備関連の受益者との話し合いをすすめなければならぬが、町としては、せめて墓構跡の約二、〇〇〇平方メートルだけでも保存したいと考えている。

祝沢線の改良  
今後強力に  
要請していく

《質問》 県道老方沼館線(祝沢線)の改良は、早くから地元民の要望が強いが町は今後どのように対処するのか。また、同路線は大型ダンプの往来が激しく通行者はきわめて危険なので、

これに交通規制はできないか。  
《答》 県は同路線の改良計画を持っていないのが現状であるようだが、今後も強力に改良を要望していく。なお、交通規制を含めて事故防止対策も強力に要請している。

生産調整対策  
ほ場の整備と  
転作作目の選定

《質問》 米の生産調整は来年度以降は更にきびしくなる見込みだが、これに対して町独自の対策が必要でないか。ほ場整備後の耕地を休ませないためにも余り米や余剰労働力などに総合的な長期展望が必要と思うが……。

《答》 ほ場整備が行われているうちは転作面積を消化できるが、長期に展望した場合、ほ場整備だけでは転作条件が備っていないので、暗渠排水によってほ場を整備するとともに、米よりも高収益な作物を選定していかなければならぬ。余剰労働力については、近代化の中で農業内、農業外の燃焼をあわせて検討していく。

町民グラウンド  
53年度で  
駐車場・観  
覧席を検討

《質問》 町民グラウンドの排水不備の原因は何か。また、西側の道路(町道台山線)が駐車場兼観覧席に使われているが、駐

かなりの  
前提の宅地造成

車場と観覧席は必要でないか。  
 《答》 排水の不備は工事過程に原因があったもので、十月中に手直しするよう業者に指示してある。駐車場および観覧席については五十三年度予算の編成段階で検討する予定である。

「すぐれた文人を後世に」  
**詩俳人の  
 句碑建立を**

《質問》 町に関係のある隠れているすぐれた文人を後世に伝えるため、詩俳人の句碑を建立する気はないか。  
 《答》 民間でもそうした人を顕彰しようという気運を高めていただき、その中で行政もお手伝いしてゆきたい。

「道路改良に関連して」  
**道路沿線の  
 新築物に指導を**

《質問》 道路改良は何年前から予想できることなので、その沿線に建築物を建てる場合、もっと慎重に調査して許可を与えるような行政指導が必要ではないか。  
 《答》 国県道の場合、国や県が改良の方針を明確にしない限り、町では指導できない面があるが、町道の場合は加えていく。なお、町道の場合はご指摘の意に添うような指導をすすめている。

「畜産経営の安定は」  
**町営放牧場の  
 高率活用で**

《質問》 畜産は農家の間に定着しつつあるが、さらに経営を安定させるため、大森町、大内町と連携して夏山冬里方式の県営放牧場（中山牧場）を早期に新設させ、農業経営の安定を図るべきと考えるが、当局の考えは……。  
 《答》 町では、若林、朴ノ木沢両放牧場の高率的な活用を第一目標にしており、それで足りない分が生ずれば、そうした広域の大型放牧場も検討しなければならぬと考えている。

「流雪溝の伏設」  
**大琴地区が  
 最も可能**

《質問》 流雪溝の伏設については前々から話があったが、その後の話の進展状況について伺いたい。  
 《答》 県の判断では、本町で最も可能なところは大琴地区で、同地区には県単独事業で伏設するという内報を得ているが、由利土木事務所長は県単独事業ではやれないし、町の協力負担もあり、公共事業でやりたいとも言っている。いずれにしても明年度は本町に何か所設けてもらうべく努力をしたい。

生活・文化祭  
**来月五日から**

農業祭もいっしょに

年々盛んになっている「町生活文化祭」は、今年も山村開発センター・朋楽荘・公民館・東由利中学校の四会場で、十一月五日から三日間にわたって行われます。  
 また、これといっしょに農協青年部など四団体が運営する「農業祭」も行われますので、ご家族、となり近所さそい合せてぜひご覧ください。

- ・写真展——写真爱好家による作品コンテスト
- ・華道展——華道各派および一般の方の作品展示
- ・陶芸展——公民館やきもの教室の方々の作品
- ・書画展——児童生徒、一般の



懐しさがいっぱいこの縮刷版

- ・衣服手芸展——愛好者の衣服および手芸の展示
- ・発明工夫展——アイデア作品でいっしょに
- ・老人作品展——お年寄りの力作を展示
- ・農産加工展——カン詰など農産加工品を展示
- ・広報写真展——一年間の町勢と町の話題を追う
- ・消費生活展——商品の実とムダのパネルと実験
- ・消防防災展——作文、ポスター、ほかを展示
- ・商工展——パネルや製品で町内企業を案内
- ・俳句展——愛好者の作品展示および俳句会
- ・愛石展——秘蔵の愛石、銘石

- ・不用品交換会——捨てるには惜しい不用品の交換会
- ・税相談コーナー——税に対する疑問にお答え
- ・保健コーナー——町の保健行政の概要を展示し保健相談に応じる
- ・ステージ——わらび座（五日夜、有料）、横手演劇研究会（六日午後 無料）の公演、いずれも東中体育館で
- ・農業祭——農産物の展示、即売会、若人のつどいなど多様

「村報縮刷版」が完成

お受け取りは早めに

「村報縮刷版」については、七月一日号広報および回覧によって町民の皆さんからの申し込みをお受けしたところ、五〇〇部を超える申し込みがありました。その縮刷版が先ごろ完成し役場に届いています。  
 縮刷版には、二十年間の村報が全ページ収録されていますので、旧村合併後の村政の推移や懐しさがいっぱいの縮刷版

助け合いの輪を広げよう

共同募金町の目標は 446,000円

赤い羽根で親しまれている国民助け合い共同募金運動が、今年も10月1日から始まりました。しあわせでありたいと願う心は誰でも同じです。「みんながしあわせに」を合いことばにこの助け合いの輪を大きく広げましょう。



# 高冷地での稲作経営に自信

## 高村実証圃で 10a 当り 六六〇キロの収穫

昨年は六十二年ぶりの大冷害に見舞われ、特に標高二〇〇以上の地域での被害は甚大であり、収穫皆無田も少なくありませんでした。

これを重視した町農業総合指導センター（小松民三郎所長）

と本荘農業改良普及所では、これら高標高地域での稲作経営の安定化を目ざして、今年度新しい試みとして「実証圃場」を設置し、一年間にわたって観察を続けてきました。

実証圃場は高村部落に設置さ



標高 200m でも10a 当り 660kgの収穫が可能であることを実証した圃場

### 高村実証圃場の耕種概要

#### (1) 育苗および栽培方法

品 種	育苗法	播種月日	播種量	田植月日	栽植様式	㎡当り株数
ヨネシロ アキヒカリ	加温出芽 トンネル (中苗)	4月16日	1箱当り 100g	5月23日	30×13 cm	25.7
ヨネシロ	ペーパー ポット	4月12日	1箱当り 120g	5月23日	30×15 cm	22.3

#### (2) 施肥法および施肥量

堆肥 1.2t    ヨーリン80kg    珪カル 160kg

	チ ッ ソ	リン 酸	カ リ
基 肥	5.0 kg	8.3 kg	6.7 kg
活 着 時 (5/28)	1.3	1.7	1.2
減数分裂期 (7/27)	1.2		1.2
計	7.5	10.0	9.1

#### (3) 除草体系

MO → 田植え → 中耕 → サタンS  
(5/19) (5/23) (6/15) (6/19)

#### (4) 水管理

水温上昇剤使用 → 溝掘り → 中干し → 落水  
(5/26~6/20) (7/4) (7/4~7/12) (9/3)

#### (5) 病虫害防除

ドロオイ (6/8) ・ カエバラ (7/3)  
紋 枯 (7/30)  
いもち病 (7/14・7/21・7/28・8/4・8/12)

れ、稲作の基本理念に忠実に、しかも、高村地域に適した品種、栽培方法を取り入れて行われたもので、管理は同部落の工藤真市さん（27歳）に委託して行われたものです。

十アの実証圃場には「アキヒカリ」と「ヨネシロ」がそれぞれ五アずつ植えられ、先ごろ坪刈りを行ったところ、ペーパーポットのヨネシロで十ア当り六六〇キという結果も出ており、関係者は平均でも十ア当り六〇〇キの収量はまちがいないもの

と見込んでいます。実証圃場の耕種概要は別記のとおりですが、標高二〇〇以上の地域での十ア当り六〇〇キ以上の収穫は最高作柄であったと言えます。管理にあたった工藤さんは一年間をふり返って「……昨年の冷害の教訓もあり本場に真剣だった。普及所の指導で初めて畑育苗による健苗育成を行い、また溝掘りの効果も知ることができた。間断灌水をこまめにやったことと病害虫の徹底防除が作柄に結びついたも

また、指導にあたった本荘農業改良普及所の斎藤普及専門員は「……地力増強のため珪カルヨーリン、堆肥の増施を行い、深耕し、中苗の畑育苗による健苗の育成、早植えの実施、初期成育促進のための活着時追肥、水温上昇剤の使用、間断灌水、溝掘り、中干しの実施、いもち病の徹底防除——これら基本的な技術を忠実に実行することによって初期の目的を達成することができた。実証圃場では現地研修も行い地域のみんなに見てもらったので、これからの高村の稲作栽培の技術、管理は確実に変わっていくと思う……」と、実証圃場の成果を総括しています。同指導センターでは、今年度の成果をふまえて、来年度は高村部落以外の高冷地で「実証圃場」を持ちたいとしています。

収穫の秋、喜びの秋です。今年の稲作は昨年の大冷害の教訓もあり、また、夏の間の天候にも恵まれ、昭和四十



表紙の とこば

九年並みの作柄と言われています。十月八日現在で、東田利農協には約三五〇〇俵の新米が出されており、その約四十俵は上位等級米（三等米以上）となっています。町内の稲刈りは約九十俵を終えており、農協倉庫はこれからが忙しくなる所。（十月十一日 蔵倉庫で）

……出かせぎされる皆さんへ……

# “互助会加入” “健康診断” 忘れずに

秋の収穫の訪れとともに、今年もまた出かせぎのシーズンがやってきました。就労先や就労条件はもうお決りになったでしょうか。長期間にわたる留守家族への配慮など心がけているでしょうか。

収穫作業も順調にすすんでいきますので、今月中に出かせぎに出る方も相当あると思いますが、出かける前にも一度確認し、余裕をもって、本人も家族も安心した上で出かけるようにしましょう。

また、出かせぎ先での事故や

- ◆ 病気も毎年発生してきますのでこうしたことに備え、“出かせぎ互助会”への加入と出発前の“健康診断”は必ず行ってほしいものです。
- ◆ このほか、町出かせぎ対策係では、次のような点に心がけてほしいと特によびかけています。
- ◆ 就労前に、事業所の名称や住所を必ず役場に届け出て、互助会へ加入すること。
- ◆ 就労する事業所が変わったり住所が変わったりした時には、家族はもちろん役場にも連絡すること。
- ◆ 就労前と著しく条件が変わる場合には、できるだけ早く職安か役場に連絡すること。
- ◆ 留守家族との連絡は密にし、営農に支障のないよう特に心がけること。
- ◆ 万一、病気や事故にあった場合はできるだけ早く医師の診療を受けると同時に、役場にも連絡すること。
- ◆ 自分の健康状態をみながら決してムリ働かないこと。
- ◆ 就労先の決っていない人もあ

ると思うが、できるだけ職安を経由して就労するように。

◆ 健康診断で医師に出かせぎを止められた場合には、決してムリをして出かけることのないように。

◆ 出かせぎ労働者手帳は三年で更新されるようになっていくので、その更新手続きを忘れずに、就労する時には必ず持って行くこと。

◆ そのほか、事業所側とのトラブルなどが起きた場合には、

## 出かせぎと国保

毎年、出かせぎのシーズンになると国民健康保険(国保)と、社会保険(社保)の加入関係やマル特被保険者証の交付に関する問題が相次ぎますので、この問題についてお知らせします。

**“社保加入”が原則**

出かせぎのため、会社や事業所等に雇用された場合には、そこで適用されている健康保険制

できるだけ早く役場に連絡すること。

**健保の加入・離脱の手続きは確実に**

度(社会保険)に加入するのが原則です。

従業員が常時五人以上の会社や事業所は、特別な事情がない限り、この社会保険の適用事業所になっているはずですので、就労契約を行う時点で確認することが大切です。



出かせぎ先で社会保険に加入した場合は、その事実が発生した日から十四日以内に国民健康保険をやめる手続きをしなければなりません。

毎年のようにある「国保の税金と会社の健康保険料を二重に納めたから、返してもらいたい……」という問い合わせは、この届け出をキチンと行わなかったために生ずるトラブルで、届け出さえ確実ならば、社会保険に加入した月から国保の税金は月割計算で減額され、決して二重納付にはならないはずのものです。

**世帯主は必ず家族をも**

出かせぎ先の社会保険に加入した場合の届け出は、①社会保険の加入証明書か被保険者証(写でも可)②従来の国保の被保険者証③印鑑を持参の上、役場の窓口へ申し出て下さい。

なお、世帯主が社会保険に加入する場合は、必ず家族を被扶養者として同じ保険に加入させ

る手続きを行うことも、忘れてならないことです。

**“マル特保険証”は“こんなどきに”**

従業員が五人未満の事業所は、もちろん、社会保険の適用事業所であっても、雇用契約がもつぱら臨時的な業務であり六カ月を超えない期間であるとか、季節労働のため四カ月未満である場合は、必ずしも社会保険に加入しなくてもよいことになっています。

こうした理由で、出かせぎ先の社会保険の適用をうけない場合は、“マル特被保険者証”と呼ばれる特例被保険者証の交付を受けることができるようになっていきます。

マル特被保険者証を必要とする方は、①国保の被保険者証②印鑑③出かせぎ先で社会保険を適用されない理由を記した事業所の証明書を添えて、住民課窓口で交付申請の手続きをしてください。

## 上半期の納税

### 祝賀がトップ

町税務課では、先ごろ今年度上半期の町税収納状況をまとめました。

それによると、平均では五六・三割が収納されており、部落別には祝賀の七三・六割が最高となっています。

なお、下表は各税の一期を一

町税納付成績表 9 / 30現在

部落名	賦課	収納	割合
大吹川	195	108	55.4
須郷	105	67	63.8
地下ノ沢	256	145	56.6
黒瀬	337	171	50.7
笹沢	200	117	58.5
向田	196	109	55.6
智者鶴	134	71	53.0
泡ノ沢	205	112	54.6
高戸屋	159	95	59.7
下小屋	132	81	61.4
時雨山	246	150	61.0
田代	422	228	54.0
石高	361	195	54.0
袖山	351	215	61.3
家ノ下	285	152	53.3
下小路	401	200	49.9
宇戸坂	345	226	65.5
館西	248	140	56.5
八日町	266	169	63.5
五海保	237	133	56.1
山崎	282	161	57.1
久保	223	120	53.8
板戸	129	58	45.0
松柴	219	106	48.4
新沢	169	104	61.5
館合新田	420	231	55.0
須郷田	276	146	52.9
新町	765	478	62.5
横小路	216	142	65.7
上通	332	198	59.6
中通	303	173	57.1
下通	565	319	56.5
湯出野	205	106	51.7
寺田	296	169	57.1
茂沢	72	39	54.2
祝沢	216	159	73.6
上里	273	124	45.4
横渡	424	248	58.5
岩館	276	147	53.3
蔵	532	364	68.4
蔵新田	640	266	41.6
島	180	117	65.0
宮ノ前	235	148	63.0
黒沢	130	84	64.6
野田	215	100	46.5
新処	273	151	55.2
十二前	223	116	52.0
桂台	72	38	52.8
小倉	375	175	46.7
中ノ沢	47	22	46.8
高村	137	63	46.0
大琴第1	558	313	56.1
〃第2	268	157	58.6
〃第3	257	146	56.8
舟木	381	204	53.5
高屋	174	108	62.1
土場沢	173	83	48.0
下吹	161	86	53.4
宿	376	214	56.9
大台	159	72	45.3
沼	137	63	46.0
杉森	223	107	48.0
畑村	104	61	58.7
奥ヶ沢	34	25	73.5
町外分	349	273	78.2
計	17,164	9,668	56.3

# 宿小女子チーム 準優勝に輝く



準優勝の宿小女子チーム、左端は男子個人3位の佐々木君

市郡小学校卓球大会で

## 玉米小も3位に

本荘市由利郡学校体育連盟（猪股芳二朗会長）主催の本荘市由利郡小学校卓球大会が、去る十月一日本荘市北中学校体育館を会場に行われました。

この大会には、市郡内の十四校から二十二チーム（男女各十一チーム）、百十名の選手が参加、男女別の個人戦、団体戦に白熱した試合を展開しました。

この大会に本町からは、男子戦（団体・個人）に住吉、老方

# 町民のひろば



### 町の概要

人口総数	6,532人
うち男	3,204人
うち女	3,328人
世帯数	1,483戸
面積	148.51km <sup>2</sup>

(52. 10. 1現在)

宿の各小学校の選手が参加、また女子戦（団体・個人）には前記三校のほか玉米小学校からも参加、市郡内各小学校の強豪を相手に奮戦しました。

結果は、男子はさすがに市郡の壁は厚く、わずかに個人戦で宿小の佐々木康一君（五年）が第三位に入賞したにとどまりましたが、女子は、団体戦で宿小チームが一回戦の平沢小、二回戦の松ヶ崎小、準決勝の小友小の各チームを圧倒的な強さで下し、決勝戦で子吉小チームと対戦2-3で惜しくも敗れましたが、堂々の準優勝に輝きました。

一方、玉米小チームも一回戦、二回戦を順調に勝ちすすみ、準決勝で優勝した子吉小に惜敗しましたが、三位入賞を果たしました。

また、個人戦でも宿小の佐々木百合賀さん（六年）と玉米小の高橋良子さん（六年）が三位に入賞しました。

東由利の各小学校の選手は、大規模校の選手に比べて場慣れをしていないので実力を十分に発揮できなかったのは残念だが技術的には、郡レベルに劣るものではない（宿小監督佐左部教諭談）ことが、この大会を通し

## 走れ!! 青春

### 畠山節子さん



(館合新田)  
二人姉妹のお姉さん  
昭和33年2月3日生  
(坂爪工業(株)勤務)

- ◆高校を卒業して半年、社会人としての感想は……。
    - ◎ 高校時代に考えていたものと現実はかなり違います……仕事が流れ作業なので、同僚の皆さんにアドバイスしてもらって、今はその仕事についていくだけで精一杯という感じです。
  - ◆ 日常生活の中で“モットー”としているようなことは。
    - ◎ “自分の気持ちに正直に生きること”ですネ……それに周囲の人たちの“和”も大切にしてください。
  - ◆ 今一番やってみたいことは……。
    - ◎ 静かなところへ気楽な旅行をしてみたい。
  - ◆ 現在の東由利青年の姿(生活)をどうとらえていますか。
    - ◎ たとえば、青年会などの団体活動を通してみると、リーダーの人だけが一生懸命であり、他の人は活発でないようなところがあります。そうしたところが日常生活の中にもうかがえるような気がします。
- ※ 時間を見つけて読書をしたい……という彼女、明るくほがらかな娘さんでした。(インタビューー 小松)

て証明されたわけで、今後の活躍が期待されます。

### 善 意

大台分校に体育用具  
財団法人教育設備助成会より、先ごろ宿小学校大台分校にバドミントンセット一式、バスケットボール二個、ドッジボール四個、サッカーボール二個が寄贈され、思わぬ贈り物に子どもたちは大喜びです。

10月1日から

### 入院介護費を支給

町では、町内に居住している生活保護世帯の世帯員および在

宅ひとり暮らし老人が入院した場合に、介護費の軽減を図ることによって療養に専念することができるよう「入院介護費支給要綱」を設定しました。

該当される方で、支給を希望する方は役場（住民課住民厚生係 ⑤の窓口）にご相談ください。

五万円が届けられました。どうもありがとうございます。故人のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

### 社福だより

故佐藤直蔵殿（元東由利村収入役）のご遺族（横渡、佐藤直温さん）より、香典返しとして

故小松亥一郎殿のご遺族（館西、小松勇助さん）より、香典返しとして三万円が届けられました。どうもありがとうございます。故人のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

### “稲ワラの焼却”は

絶対にやめましょう!